まちづくり人財塾　第５回講座　開催のご報告

今回は、前回までのグループワーク形式だけではなく、第１部に早稲田大学名誉教授の北川正恭先生の講演、第２部では青森中央学院大学の佐藤先生にファシリテーターをお願いいたしまして、パネルディスカッションを実施いたしました。パネルディスカッションのパネラーとしては、澤田議会議長、移住者代表五十嵐さん、松尾町長と北川先生の４名で三戸町の現状、そしてこれからについて語っていただきました。

第１部　講演

「役場、議会、町民の対話で創る三戸町の未来」

【講演内容】

〇地方創生のためには町民と行政の協力が必要になる

〇町民全員で町を創っていかなければいけない

〇役場だけに頼らず！

【参加者からの質問】

〇三戸は良い物が沢山あるけど、個々ではなく町全体で三戸ブランドにするためには？→出来ないのは町政が悪い？それを選んだ町民が悪い？という考え方で町民皆が意識をしていくことが大切。

〇三戸高校の生徒減少について、県立高校に町として出来ることは？

→町で、町民で、沢山対話をして、意見を県なり国なりに伝えてみる。県立だから町は何も出来ないではなく、町の総意であれば意見も伝わるはず。

〇人口減少はどこまで続く？増えることはあるのか？

→２０４０年が日本の人口が一番減る時期。超高齢社会。減ることが悪い訳ではないが、急激に減るのが良くない。

第２部　パネルディスカッション

パネラー：北川先生、澤田議長、五十嵐さん、松尾町長

ファシリテーター：佐藤先生

問　三戸町の課題は何だと思いますか？

総じて、「人口減少」というキーワードが出ていました。

〇町民が町の魅力を知っていくことが必要

〇「三戸には何も無い」という意識を子どもたちに植え付けているのは私たち大人ではないか？

問　10 年度、どんな三戸町になっていたいですか？

〇人口は減っていても、コミュニティの輪を保ち、町外の人とも交流を深め、お互いを補い合えるような町になっていって欲しい

〇町民の活力を失わない

〇子どもたちが夢を描けるような町

〇町外の人と町民が一緒になって活動している、宮城県丸森町のような町

〇孫世代が継ぎたいと思える農業の仕組みを作っていきたい

〇町のイベントを町民主体で開催できるような町

（北川先生コメント）

〇10 年後のビジョンをしっかり示し、何をするか、何をしたかなど、情報を公開していってほしい

〇高校生がこの町に残っていきたいと思える町をつくっていただきたい

問　ありたい三戸町に向かって、取り組みたいことは何ですか？

〇町内会単位での対話のワークショップ

〇町民に対して情報公開をし、町民の信頼を得ていきたい

〇「三戸には何も無い」という意識を払拭。大人が楽しそうに取り組んでいる姿を子どもたちにも見せていけるような取り組み

普段このような会に参加されたことのない方でも、和やかな雰囲気で、少しずつ対話に慣れていくことが出来ます。
今後も対話のまちづくりを進めていきますので、是非皆さん参加してみてください！！